

平成30年度第3回始良・伊佐保健医療圏地域医療構想調整会議の開催結果について

- 1 開催日時 平成31年3月12日（火） 18時～20時
- 2 開催場所 始良・伊佐地域振興局 霧島庁舎 2階会議室
- 3 出席者 17名
- 4 欠席者 0名
- 5 傍聴者 30名
- 6 議 事

(1) 報告事項

- ア 連携パスに関する委員会(急性心筋梗塞)の議事報告について
- イ 始良・伊佐保健医療圏地域医療連携計画について
- ウ 県の地域医療構想の進め方について
- エ 始良地区及び伊佐市医師会地域医療連携部門会の議事報告について
- オ 病院及び有床診療所の2025年に向けた計画等のまとめについて

(2) 協議事項

- ア 今後の課題と医療連携について
- イ 平成31年度の調整会議の進め方について
- ウ 調整会議委員の選任について

(3) その他

7 主な意見及び協議結果等

(1) 報告事項

- ア 連携パスに関する委員会(急性心筋梗塞)の議事報告について
始良地区医師会で作成した「心蔵手帳」について、平成31年4月から使用を予定しており、経過を見ながら、心不全手帳の作成も予定している。
- イ 始良・伊佐保健医療圏地域医療連携計画について
当該連携計画及び、5事業5疾病、在宅医療についての医療連携体制について個別の医療機関名を公表予定。
- ウ 県の地域医療構想の進め方について
平成31年1月31日に第1回県調整会議が開催され、病床機能報告について定量的基準の考え方やデータ分析について、専門部会で協議することとされた。

(主な意見等)

- ・ 介護療養病床、医療療養病床から介護医療院への転換については、2020年までの3年間は無条件に認める旨、厚労省通知が発出されており、転換する医療機関が出てくると思われるが、認めない圏域もあると聞いているので国の方向に沿って欲しい。
- エ 始良地区及び伊佐市医師会地域医療連携部門会の議事報告について、オ 病院及び有床診療所の2025年に向けた計画等のまとめについて
 - ・ 圏域の病床機能の分化・連携を推進するための具体的な議論を進めるため

に、公立病院及び公的医療機関を除く病院，有床診療所について、「地域での役割や今後の方針など」，2025年に向けた計画等の作成について，圏域の全ての医療機関から計画を提出してもらった。

- ・ 各医療機関からの計画について，事務局でまとめ，各医師会毎に地域医療連携部門会で報告し，地域課題等について協議した。
- ・ 伊佐地区では，外来患者の減少，医師や医療スタッフの高齢化等の課題が出され，北薩病院を中心に，今後も課題について，検討して行く予定。
- ・ 始良地区については，医療機関の新築や移転計画，診療科目の見直し等が行われている。また，連携パスは機能していないものの，病病連携，病診連携も医療連携室を中心に医療機関の独自の判断で実施されている。
- ・ マンパワー確保のために，准看学校の継続，介護施設でのスタッフの交流による土日・祝日の対応などについて働き方も考慮していく必要がある。
- ・ 今後も，医師会を中心にした各地域医療連携部門会において，圏域内で取り組むべきことについて検討予定。

(2) 協議事項

ア 今後の課題と医療連携について

(主な意見等)

- ・ 在宅医療のパワーも限られており，本当に在宅医療が必要な方にサービスが行き届かない部分がある。運転免許の返納で通院が難しい方もおり，医療サービスが行き届くよう行政に協力をお願いしたい。
- ・ 伊佐市では，福祉タクシー券1枚500円を年間で24枚。医療と買物を一緒にセットでした形で実施し，年間予算は約3,000万円である。
- ・ 湧水町では，ふるさと巡回バスを巡回し高齢者の通院介助，支援をしている。医療関係の送迎サービスもあり，利用者は少なくなっている。高齢化が進み停留所，バス停まで行けないため，今後は，デマンド型システムに替えていきたい。
- ・ 在宅の方が医療機関ではなく，できるだけ社会に出て行くような取り組みが今後必要。これからは共生社会を作っていく必要がある。高齢者，こども，障害者，子育て家庭を安全で安心できるような社会をつくっていき，それを地域包括ケアシステムで支えていく。ものすごい勢いで人口が減り，高齢化も進む。どんな地域になっていくか想像できないが，住民が生活できるように長期ビジョンを持ってこういう調整会議に出て検討していく。全体が本気にならないと大変なことが起こるのではないか。
- ・ 看護人材の確保として，伊佐市の准看護学校は継続してほしい。すべての職種で医療人材は慢性的に不足している。
- ・ 介護人材も不足している中で，選ばれる施設は人材がある程度確保されている。人の循環が早い施設と定着している施設とで差が出てきている。働き方改革と言われても，医療介護の現場職員は24時間，365日を担っていかないといけない。例えば，グループホームや地域密着系であれば，近隣の事業者と連携しながら，1年間の中でスタッフをやりとりしながら，完全に週2日間は

休息できるようになど，県，国をあげて見ていかないと介護人材が他の職種に流れていくと思う。

(協議結果)

始良地区医師会及び伊佐市医師会の地域医療連携部門会において，医療連携のあり方や人材確保等の課題について今後も協議を継続する。

イ 平成31年度の調整会議の進め方について

(協議結果)

県調整会議の方向性が出る10月以降に第1回目の始良・伊佐地域地域医療構想調整会議を開催し，2回目を平成32年の2月頃開催予定。また，始良地区医師会及び伊佐市医師による，医療連携部門会を8月頃と11月頃に開始予定。

ウ 調整会議委員の選任について

(協議結果)

委員の選任については，現在の委員はそのまま継続。また，全国健康保険組合鹿児島支部が新規委員として任命予定。委員数は18名。